

令和 6 年度事業概要

(1) 環境総合対策

鶴岡市環境審議会

第 1 回

日 時： 令和 6 年 9 月 30 日 (月) 午後 3 時 00 分
会 場： 鶴岡市役所 大会議室 (馬場町 9 - 25)
審議事項： (1) 令和 5 年度事業概要について
 (2) 令和 6 年度主要事業について
 (3) 「 (仮称) 三瀬矢引風力発電事業 」 準備書にかかる環境アセスメントについて

環境影響評価等

ア 環境アセスメント

環境影響評価法に基づく環境アセスメントに關係市町村として協力。

・ (仮称) 三瀬矢引風力発電事業 … 事業者による準備書提出に向け調整

イ 再生可能エネルギーに関するガイドライン

大規模事業の適切な実施を促すための市独自のガイドラインに基づき、業務を実施。

・ 「 鶴岡市再生可能エネルギー供給施設の設置等に係る基本ガイドライン 」

(2) 地球環境対策 (地球温暖化対策実行計画の推進) と計画の見直し

地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)

- ・ 第 3 次鶴岡市地球温暖化対策実行計画に基づき、地球温暖化対策に資する賢い選択を推進する国民運動 「 COOL CHOICE 」 に連動した各種事業の普及啓発に努めた。
- ・ 市域からの温室効果ガス排出量推計を市 HP 上に公表。

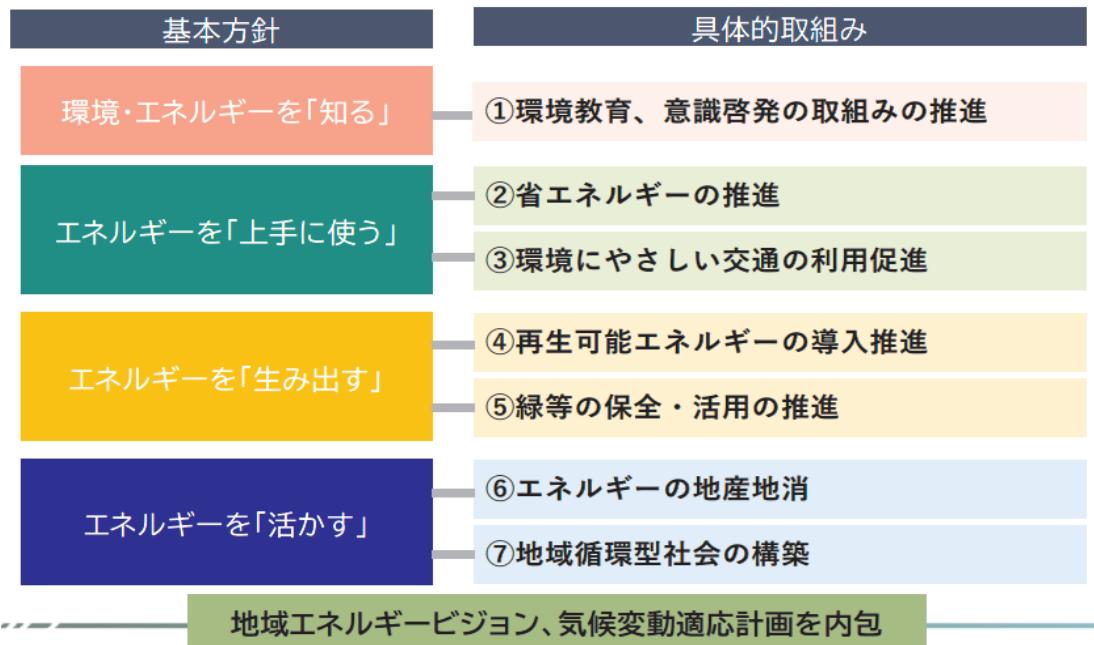
地球温暖化対策実行計画 (事務事業編)

各課室にエコ推進員を配置して、温室効果ガス排出量削減のための取組みを実施。また市関係全ての施設・設備等のエネルギー使用量を集約、温室効果ガス排出量を算定して市 HP 上に公表。

第 3 次地球温暖化対策実行計画の見直し

令和 5 年度に国の補助 「 地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業 」 を活用し、本市の現状分析と再エネポテンシャルのポテンシャルについて分析調査を実施し、また、庁内会議における協議や市内事業者へのアンケート及び意見交換を行った。それらを踏まえ、来年度の計画の見直しに向けて庁内会議における協議、検討を行った。

府内会議「地球温暖化対策実行計画推進会議」による「基本方針と具体的な取組み(案)」



グリーンカーテンの普及促進

身近でできる地球温暖化対策の一つとしてグリーンカーテンの普及を図る。

ア 種とネットの無料配布 [環境つるおか推進協議会事業]

家庭等への普及対策として、4月15日に本所旧環境課で、ゴーヤ、アサガオの種を配布。

イ グリーンカーテンコンテスト [環境つるおか推進協議会事業]

市民・事業者等からの募集により実施し、環境フェアつるおか2024にて展示・表彰。

地域エネルギー・ビジョンの推進

再生可能エネルギー設備普及促進事業費補助金および

木質バイオマスエネルギー設備普及促進事業費補助金交付実績

設備	件数	金額(円)
太陽光発電設備	11	960,000
木質バイオマス燃焼機器(ストーブ)	13	1,300,000
合計	24	2,260,000

地中熱利用設備、太陽熱利用設備は0件

地下水利用対策事務

- ・山形県との委託契約に基づき、鶴岡市内では鶴岡観測井で地下水位と地盤沈下を、櫛引で地下水位の観測と装置の管理を行った。
- ・地下水の適正利用と保全等を目的とした「庄内南部地域地下水利用対策協議会」の事

務局として総会、啓発活動等の運営事務を行った。

(3) 自然環境保全活用対策

森林文化都市構想推進事業

森林学習・体験講座「つるおか森の時間」の実施

5月26日(日)	藤沢岩屋遺跡散策路で森林散策、由豆佐壳神社付近 樹木園で森林散策、湯田川温泉街周辺散策	19名参加
7月7日(日)	水生生物観察会、水質調査体験、森林散策 同時開催「森の学校」	37名参加 (森の学校含む)
10月26日(土)	十王峠で森林散策・どんぐり拾い、里親ポットづくり・クラフト体験、やまびこ体験、苗の移植作業	20名参加
11月24日(土)	湯田川孟宗竹の竹林整備体験・竹の切り出し、ケヤキの森で竹を使ったアウトドアクッキング・焚火体験・森林散策	23名参加 (サスティナ 鶴岡等含む)
1月25日(土)	県民の森をラングラウフスキーでスノートレッキング体験	16名参加

庄内自然博物園構想推進事業

ア 鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」の管理運営及び都沢湿地の維持管理

拠点施設である「ほとりあ」について、大山自治会を指定管理者として、施設の管理運営及び都沢湿地の維持管理を実施した。

イ 自然学習及び保全活動の実施

自然観察会や里地里山学講座のほか、庄内自然博物園構想推進協議会と連携し、都沢湿地保全活動、自然学習イベント等のソフト事業を実施した。

ウ ラムサール条約登録湿地関係事業の実施

大山上池・下池がラムサール条約登録湿地となり 15 周年を迎えたことから、下記の関連記念事業を開催した。

大山上池・下池 ラムサール条約登録湿地 15 周年記念事業

里地里山学特別講座

「ラムサール条約の神髄と日本のラムサール条約登録湿地の変遷と今後について」

日 時	令和 6 年 6 月 16 日(日) 午後 1 時 30 分から 4 時
会 場	鶴岡市自然学習交流館ほとりあ 学習交流室
内 容	名執 芳博 氏(日本国際湿地保全連合 相談役)による講演
参加人数等	21名

エ 中長期計画の策定

「庄内自然博物園構想 中長期計画(2024~2028年)」の進捗管理と具体的な取組みの検討を行った。

(4) 生活環境保全対策事業

環境保全推進員の設置

鶴岡市環境保全推進員研修会を 7 月 30 日(火)に開催(地域庁舎はリモートによる参加)

- ・表彰、委嘱状交付(390 名)

・研修内容：講演：「我が家でも考えてみる太陽光発電等の再生可能エネルギー導入」

　　講師：東北芸術工科大学建築・環境デザイン学科

　　教授 三浦 秀一 氏

- ・令和 6 年度事業内容説明(環境課、廃棄物対策課) 推進員の職務等説明

公害等対策

ア 各種汚染物質の測定・分析事務

- ・ダイオキシン類測定(大気 2 回、地下水 1 回)

- ・西郷地区砂丘地地下水水質測定(2 回、農業用水井戸 4 か所)

イ 大気汚染緊急時対策

光化学オキシダント、P 2.5 等の大気汚染物質に関して、県が実施している常時観測の結果に基づき一定以上の高濃度になることが予測された場合に、小児、高齢者等の高感受性者への注意喚起を実施するための連絡網を更新整備。

これまで鶴岡市内で注意喚起の例無し。

ウ 硝酸性窒素等削減対策

西郷地区砂丘地の硝酸性窒素について、県の行う水質調査のほか、市でも独自調査(前記「西郷地区砂丘地地下水水質測定」)の結果をもとに、健康課を通じて地下水を飲用しないよう地域住民へ呼びかけを行った。

エ 騒音・振動に係る届出書の受理

騒音規制法、振動規制法及び山形県生活環境保全条例に基づく特定施設・特定建設作業・公害防止管理者等の各種届出を受理。

オ 自動車交通騒音常時監視業務

騒音規制法に基づき、令和 4 年度から 5 年間の自動車騒音監視計画を策定し、令和 6 年度は 7 地点の調査を実施した。

生活環境に係る苦情等対応

生活環境に係る各種の苦情・相談・通報等に対し迅速かつ適切な対応を行った。

[公害等苦情処理受付件数]

種別 年度	典型 7 公害								その他	合計
	大気 汚染	水質 汚濁	土壤 汚染	騒音	振動	地盤 沈下	悪臭	小計		
4	11	16	0	4	1	0	9	41	83	149
5	7	19	0	3	1	0	9	39	67	106
6	4	21	1	6	0	0	7	39	92	131

※令和6年度その他の内訳 空き地の管理：56件 生物に関する苦情：23件 その他：13件

・水質汚濁については、主に油漏れに関するもの。また大気汚染については、主に野焼きによる通報となっておりいずれも小規模で一時的なもの。

カラス被害対策

電力会社への協力依頼等による追払い対策、箱わなによる捕獲(市街地周辺に 1 基、9 月 1 日～3 月 14 日で 392 羽)を実施した。

空き家対策事業

令和 5 年 3 月に、空き家等対策の推進に関する特別措置法に基づき策定した「第 2 次鶴岡市空き家等対策計画」をもとに、空き家等の適正管理対策を実施した。

ア 空き家等審議会の開催

第 1 回

日 時：令和 7 年 1 月 21 日(火)午後 1 時 30 分

会 場：本所別棟 2 号館 22 号会議室

審議事項：
・鶴岡市空き家対策の状況について
・「管理不全空家等」について

イ 適正管理対策

- ・市民からの苦情・相談等に対応し、所有者等に対し適正管理の指導及び人身・財産への危険が切迫している場合には応急措置を講じた。(相談件数 226 件 応急措置 42 件)
- ・令和 2 年度空き家実態調査の結果に基づいて、不良空き家の一斉調査を実施し、適正管理の助言を行った。
- ・樹木や雑草に関する苦情があった空き家の所有者に対して、適正管理の助言を行った。

ウ 危険空き家解体事業補助金の交付

危険な空き家の解体を実施した個人及び住民自治組織等の地域団体に対し、補助金を交付するもの。(個人 4 件、地域団体 2 件)

アメリカシロヒトリ防除対策事業

各町内会の申請に応じ、防除用機械の貸し出しと薬剤の提供を行った。
(令和 6 年度実施件数 44 件)

熱中症対策

気候変動による酷暑へ適応するため、市民へ向けた熱中症対策を行った。

全庁的な熱中症対策の取組みの推進や、日頃からの予防ための市民へ向けた周知啓発、熱中症関連のアラート発表時の注意喚起、クーリングシェルター（涼み処）の指定と利用の周知を行った。

（クーリングシェルター（涼み処）の指定件数 市有施設：54箇所 民間施設：5箇所）

（ 5 ）環境意識啓発対策

環境教育推進事業

ア 環境つるおか推進協議会の運営

平成 21 年 2 月に設立した「環境つるおか推進協議会」の事務局として、市・市民・事業者の連携のもとで環境全般にわたる啓発事業を行った。

イ 「環境フェアつるおか」の開催

新型コロナウィルス感染症対策を講じ、9月 22 (日) に「みんなでつなごう 地球の未来 つるおかの未来」をテーマとして開催。

ウ 環境出前講座の紹介

環境アドバイザーや企業による講座を小中学校へ紹介した。

「森のよさを感じとろう」

日 時：令和 6 年 8 月 23 日(金) 9 時～

場 所：致道館中学校 4F 講堂

実施主体：株式会社 JVC ケンウッド山形

参加者数：81 人（同校 1 年生）

エ 鶴岡市こども環境かるた事業【環境つるおか推進協議会事業】

令和 4 年度において全音決定したかるたの作成と配布及び当該かるたを使用した「鶴岡市こども環境かるた大会」を開催。

日 時：令和 7 年 2 月 8 日(土) 9 時 30 分～

会 場：第三学区コミュニティセンター 大ホール

参加者数：22 組 44 名

オ 講座・イベント等の普及啓発事業

7月 22 日(土) 小学生とその保護者を対象とした工作イベント

「ZEH をつくろう」の実施 20 名参加

環境情報の発信

ア 環境広報「エコ通信」の発行

環境に関する意識啓発と情報提供を目的とした広報紙を年 2 回発行し、全世帯に配布を

行った。A4版で1回(広報つるおか6月号折込) A3版で1回(広報つるおか9月号折込)。

(6) 鶴岡市の大気等環境保全状況(各種調査結果)

ダイオキシン類測定結果

ダイオキシン類測定分析は、大気及び地下水について実施した。

なお、大気分析は例年2回実施しており、地下水と河川水の分析は交互に隔年1回実施している。令和6年度は大気と地下水を行い、測定結果は以下のとおり環境基準を下回っている。

採取場所: 《大 気》鶴岡市民プール(2階テラス)【8月・12月採取】

《地下水》鶴岡市民プール(西側外洗い場) 【8月採取】

●ダイオキシン類調査結果

項目	R3	R4	R5	R6	環境基準
大気 (pg-TEQ/m ³)	0.0059	0.0046	0.0048	0.0054	0.6
河川水 (pg-TEQ/)	0.44	—	0.12	—	1
地下水 (pg-TEQ/)	—	0.033	—	0.036	1

大気は2回の平均

西郷地区砂丘地地下水分析調査結果

硝酸性窒素等の地下水汚染が懸念されている西郷地区において、農業用水井戸4箇所の地下水について、例年7月と10月の2回、硝酸性窒素等の地下水汚染状況を調査している。令和6年度は、1箇所の井戸で環境基準の10mg/を超える硝酸性窒素が検出された。検出値は、最大13.6mg/である。また、2箇所の井戸で溶解性マンガンが水道法の水質基準を超えていた。このことから健康課へ情報提供し、飲用しないことを関係者に周知している。今後も監視を続けていく必要がある。

令和6年度調査結果

箇所	調査時期	硝酸性 窒素	亜硝酸性 窒素	塩化物 イオン	過マンガン酸 カリウム 消費量	溶解性鉄 (mg/ℓ)	溶解性 マンガン (mg/ℓ)
		(mg/ℓ)	(mg/ℓ)	(mg/ℓ)	(mg/ℓ)		
1	7月	7.4	<0.1	30.2	1.7	0.009	<0.005
	10月	7.3	<0.1	27.7	1.4	0.013	<0.005
2	7月	2.3	<0.1	53.1	2.7	0.012	0.103
	10月	8.1	<0.1	26.1	1.7	0.007	<0.005
3	7月	2.9	<0.1	36.5	3	0.052	0.053
	10月	3.4	<0.1	30.3	3.2	0.13	0.037
4	7月	13.6	<0.1	26.2	4.9	0.009	<0.005
	10月	8.8	<0.1	19.1	4.9	0.015	<0.005
人の健康保護に 関する環境基準	10mg/ℓ 以下	10mg/ℓ 以下	—	—	—	—	—
水道法による 水質基準	10mg/ℓ 以下	10mg/ℓ 以下	200mg/ℓ 以下	10mg/ℓ 以下	0.3mg/ℓ 以下	0.05mg/ℓ 以下	

自動車交通騒音調査結果

国からの法定受託事務として実施。騒音規制法に基づき、市内の環境基準類型指定地域内における自動車騒音の調査を行った。令和6年度は、7箇所の調査を実施し、下表のとおり14区間に隣接する住居等の評価を行った結果、全地点で基準値内だった。

● 区間別騒音調査結果（14区間）

(7) 第 2 次鶴岡市環境基本計画の成果指標による評価・検証

令和 4 年 10 月策定・公表した第 2 次鶴岡市環境基本計画の評価・検証を行った。

第 2 次鶴岡市環境基本計画成果

指 標	現 状	目 標
1 持続可能な社会をけん引する人づくりと市民・事業者総ぐるみによる運動の展開		
(1) 環境学習への参加者数（環境フェア + 体験型環境教室 + リサイクル教室等）(年間)	3,505人 (R1)	5,000人 (R13)
(2) 環境保全活動への参加者数（一斉清掃 + クリーン作戦 + 河川清掃）(年間)	25,102人 (R3)	26,000人 (R13)
(3) 「つるおか SDGs 推進パートナー」登録企業・団体数	53企業・団体 (R3)	185企業・団体 (R5)
2 気候変動対策による環境と成長の好循環の実現		
(1) 温室効果ガス排出量削減率 2013(H25)年度比	20% (R1)	50% (R13)
(2) 環境マネジメントシステムに基づく取組みを行っている事業所数	9事業所 (R3)	10事業所 (R13)
(3) 民有林における間伐面積(年間)	102.68ha (R3)	400.00ha (R13)
3 再生可能エネルギーの導入拡大による地域の活性化		
(1) 再エネ補助件数(累計)	406件 (R3)	860件 (R13)
(2) 再生可能エネルギーの年間発電量	2,961TJ (R3)	3,100TJ (R13)
4 3Rの推進による循環型社会の構築		
(1) 1人1日当たりの家庭系ごみの年間排出量（資源ごみを除く）	601g (R3)	540g (R13)
(2) ごみ焼却施設でのプラスチック等の年間焼却量	3,771t (R3)	3,000t (R13)
5 生物多様性の保全と活用による自然共生社会の構築		
(1) 自然学習交流館「ほとりあ」の来館者数(年間)	24,935人 (H30)	25,000 (R13)
(2) 国・県指定天然記念物	19件 (R3)	現状維持 (R13)
(3) 市指定天然記念物	26件 (R3)	現状維持 (R13)
6 良好的な大気・水環境の確保と次世代への継承		
(1) 水・大気の環境基準達成率 光化学オキシダントのみ未達成	(R3)	100% (R13)
(2) 公害事案(基準値越え)件数	0件 (R3)	0件 (R13)
(3) 危険空き家解体補助件数(累計)	22件 (R3)	72件 (R13)

第2次鶴岡市環境基本計画の成果指標による進捗評価								
1 持続可能な社会をけん引する人づくりと市民・事業者総ぐるみによる運動の展開								
(1) 環境学習への参加者数(環境フェア+体験型環境教室+リサイクル教室等)(年間)								
KPI	単位	現状値 (初期値 R1) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
	人	3,505	3,181	5,000	-21.7%	B	63.6%	3,955
現状と要因分析		2015年 国連による「パリ協定」が採択され、2021年 政府が2030年の温室効果ガス削減目標を2013年度比46%の削減を表明するなど、世界的に高まる地球温暖化対策にかかるゼロカーボン実現やSDGsの考え方に関し、市民や事業者の認知度や危機感はまだまだ低く更なる行動変容が必要となっている。 環境フェアへの参加人数に伸び悩みがあるものの周知不足と考えられ、エネルギー危機による電力料金高騰により省エネの関心度は確実に高まっている。						
これまでの取組		本市ホームページ等でのクールチョイスの取組紹介や、先進的な市内企業の脱炭素の取組を紹介又は、環境出前講座として市民や企業に対し実施するなど環境教育・啓発を進めている。						
今後の取組・方向性		環境教育こそ全ての施策を進める原動力となる考え方の基で更なる環境教育を推進する。 まずは、新しい試みを加えた「環境フェアつるおか」を引き続き開催し、様々な広報媒体を活用して周知を徹底しながら盛り上げていく。また、市民向けの「森の時間」や「ZEHを作ろう」等の体験型環境教室の開催について、更なる工夫を凝らしながら継続実施していく。						
(2) 環境保全活動への参加者数(一斉清掃+クリーン作戦+河川清掃)(年間)								
KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
	人	25,102	29,874	26,000		A	114.9%	28,312
現状と要因分析		美しく快適で豊かな環境づくりや河川・海岸愛護に対する市民意識の醸成、海ごみの削減などを目的に、市民や関係団体の積極的な参加と協力のもと、市一斉清掃やクリーン作戦、河川・海岸清掃を行っている。 令和6年度の環境保全活動への参加者数は令和5年度より1,562人増加した。						
これまでの取組		・実施団体へのごみ袋の提供や、集められたごみの回収などを通じて、活動を支援している。 ・本活動が市民の日常的な活動につながるように継続的な啓発広報活動を推進している。						
今後の取組・方向性		・高齢化の進展や働き方の多様化などにより、実施日が休日であっても参加者の確保が難しくなっているが、関係団体と協力しながら環境保全活動を継続していく。 ・海ごみの現状やクリーン作戦の意義などを情報発信することで、環境保全活動への参加者を維持していく。						
(3) 「つるおかSDGs推進パートナー」登録企業・団体数								
KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (R5目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
	企業団体	53	125	185	54.5%	B	67.6%	119
現状と要因分析		SDGs未来都市として、SDGsの普及啓発を行うとともに、企業や団体等のSDGsの達成に向けた取組を後押しするため、SDGs宣言登録制度「つるおかSDGs推進パートナー」により、官民一体となって持続可能な社会の実現に向けた取組を推進している。						
これまでの取組		SDGsに取り組む企業・団体等である「つるおかSDGs推進パートナー」の交流の場として、オンライン及び対面による交流会を実施し、パートナー同士の連携の輪を拡大するとともに、学校やコミュニティセンターなどを対象とした出前講座の実施、新聞広告による広報周知を通じ、市民等に対するSDGsの理解促進、普及促進啓発を行った。						
今後の取組・方向性		「つるおかSDGs推進パートナー」制度の推進に向け、引き続き新聞広告等による広報周知を実施するとともに、パートナー企業・団体等が行うSDGs達成に向けた取組の市ホームページへの掲載、またパートナー同士の交流の場の提供を図る。						

【進捗状況について】

- 『A』: 成果指標とする数値を達成した(R6 数値 = 成果指標)
- 『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある(初期値 < R6 数値 < 成果指標)
- 『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した(初期値 > R6 数値)
- 『-』: データが未集計若しくは有効な数値がない

- 『見える化』として
傾向方向を矢印で表現
- ・ 横這い
 - ・ 上向き
 - ・ 下降気味

2 気候変動対策による環境と成長の好循環の実現

(1) 温室効果ガスの削減(2015年の温室効果ガス排出量を基準とした削減率)

KPI	単位	現状値 (初期値 H25) (A)	R6実績(発表) R4値 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (H25比削減率) 1-(B/C)	R5実績(発表) R3値
		kt-co2	1,075.4	948.2	537.7	23.7%	B	862.7
現状と 要因分析	本年度の本市の温室効果ガスの排出量はR3年の862.7kt-co2からR4年に948.2kt-co2と増加している。これは産業部門製造業の排出量の増加が主な原因であり、特に製造業のうち半導体需要や円安による電子部品、デバイス、電子回路製造業が伸びていることが挙げられる。また、家庭におけるエネルギー消費の排出量も増加となっているが、これは地球温暖化への危機意識やSDGsの理解促進等の取組はなされており、人口は減少しているものの世帯数が増加していることが要因とみられる。目標を達成するには、今後さらに市民、企業及び行政総ぐるみでの徹底した省エネや再生可能エネルギーの導入などの取組が必要。その行動変容を促すためには、環境教育による地球温暖化への危機意識やSDGsの理解の促進をさらに進めることが重要。							
これまでの取組	令和3年4月からごみ焼却施設での焼却熱を利用した「ごみ発電」を行い、その電気の環境価値については、令和3年11月にグリーン電力として証書化するなどの取り組みに加え、市所有建築物については、照明のLED化など省エネ機器の導入や小中学校への太陽光パネル設置などを行った。また、市民・市内企業向けの再エネ補助金についても継続実施するとともに「環境フェアつるおか」などにより環境教育を実施している。							
今後の取組・ 方向性	鶴岡市地球温暖化対策実行計画の見直しを行い、太陽光・風力・水力などの再生可能エネルギーの最大限導入の可能性及び本市の森林などの二酸化炭素吸収源を含む現状把握について調査・研究を進める。また、今後の脱炭素施策について環境教育を強化し、市民、企業や行政の総ぐるみで取組を進めていく。							

(2) 環境マネジメントシステムに基づく取組みを行っている事業所数

KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
		事業所	9	8	10	-	B	80.0%
現状と 要因分析	日本の認証評価機関でISO14001の認証を取得している企業数が減少している。本認証の取得・維持にコストがかかることが一因と考えられるが、一方で企業への脱炭素に関する要求は高くなっていることから再生可能エネルギー・省エネ機器導入の取組の検討は進められている。							
これまでの取組	環境フェアつるおかなど様々な機会を捉えた企業との勉強会や意見交換(事業者ヒアリング)を重ねるとともに市ホームページにて先進的な市内企業の脱炭素の取組を紹介や国や県の支援を紹介するなど環境経営に取り組む企業への啓発や協力を実施。							
今後の取組・ 方向性	市内企業の先進的な脱炭素の取組については、その企業の成長や他企業が取組むきっかけとなることを目指し、本市ホームページでの紹介を継続・強化する。また、企業の脱炭素の取組がISO認証・継続に寄与するとともに、その企業の成長に繋がる取組となるよう「環境フェアつるおか」等における環境学習と企業との意見交換の機会を継続・強化していく。							

(3) 民有林における間伐面積(年間)

KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
		ha	102.68	167	400.00	21.7%	B	41.8%
現状と 要因分析	森林所有者の転出や世代交代などから所有者不明の森林や境界不明地が増加傾向にあり、適正な管理が困難な状況にある。また、木材価格の長期低迷もあり、森林に対する関心の低下に拍車をかけている。							
これまでの取組	国県補助・森林環境譲与税を活用し、林業事業体が策定する森林経営計画の作成費用や間伐・下刈り等の森林整備費用に対する支援を行っている。							
今後の取組・ 方向性	引き続き、林業事業体による森林整備活動に対する費用の支援するとともに、担い手対策(林業事業体の体制強化)、森林経営管理制度の推進、木材搬出道路の整備、高性能林業機械導入の推進などの各種取組を行う。							

【進捗状況について】

- 『A』: 成果指標とする数値を達成した (R6 数値 成果指標)
 『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 < R6 数値 < 成果指標)
 『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 R 数値)
 『-』: データが未集計若しくは有効な数値がない

- 『見える化』として
傾向方向を矢印で表現
 ・ 横這い
 ・ 上向き
 ・ 下降気味

3 再生可能エネルギーの導入拡大による地域の活性化								
(1)再エネ補助件数(累計)								
KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
	件	406	500	860	20.7%	B	58.1%	476
現状と 要因分析	近年は予算のほぼ上限まで申請があることから、市民の意識についても醸成されつつあり、2050年カーボンニュートラル達成に向けて、地球温暖化防止などの取組みを自分のこととして行動する意識が高まっている。							
これまでの取組	市ホームページでの事業周知、執行状況公表、申請書類のチェックリスト化など、市民にわかりやすく、利用しやすいように周知及び説明の取組を強化している。							
今後の取組・ 方向性	事業の周知について継続・強化していくとともに、R6年度から森林環境税を活用した「木質バイオマス」の補助金の拡大をしており、今後も近年の社会情勢の変化による市民のニーズに対応した補助メニューについて検討する。							
(2)再生可能エネルギーの年間発電量(年間)								
KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
	TJ	2,961	3,008	3,100	33.8%	B	97.0%	3,008
現状と 要因分析	家庭における再生可能エネルギーの導入が進んだことにより年間発電量が増えている。本市再生可能エネルギー補助金についても、近年は予算のほぼ上限まで申請があることから市民の意識の醸成が高まっているおり、地球温暖化防止などの取組みを自分のこととして行動する意識が高まっている。							
これまでの取組	「環境フェアつるおか」などによる環境教育を進めながら市ホームページでの本市再エネ補助事業の周知においても執行状況公表、申請書類のチェックリスト化など、市民にわかりやすく、利用しやすいように周知及び説明の取組を強化している。							
今後の取組・ 方向性	鶴岡市地球温暖化対策実行計画による太陽光・風力・水力などの再生可能エネルギーの最大限導入の可能性について調査・研究を進める。							

【進捗状況について】

- 『A』: 成果指標とする数値を達成した (R6 数値 = 成果指標)
 『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 < R6 数値 < 成果指標)
 『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 = R6 数値)
 『』: データが未集計若しくは有効な数値がない

『見える化』として
傾向方向を矢印で表現
 ・ 横這い
 ・ 上向き
 ・ 下降気味

4 3 R の推進による循環型社会の構築

(1) 1 人 1 日当たりの家庭系ごみの年間排出量(資源ごみを除く)

KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
		g	601.0	569	540.0	52.5%	B	△
現状と要因分析		1人1日当たりの家庭系ごみの年間排出量(資源ごみを除く)は令和5年度比で2グラムの増となり、依然として全国平均・県平均と比べて高い状態が続いている。 家庭系ごみのほとんどを占めるもやすごみのサンプル調査を実施したところ、古紙類やプラスチック製容器包装類、食品ロスといった、資源化や減量が可能なごみがもやすごみの約3割を占めており、ごみの排出抑制や分別が徹底されていないことが一因と考えられる。						

これまでの取組

- ・広報やHP、SNS、LINEのプッシュ通知、YouTubeのショート動画などの各種媒体を活用した情報発信を行った。令和6年6月には、『ごみの分け方・出し方ガイドブック』を改定し各家庭に配布した。
- ・家庭ごみの約9割を占めるもやすごみのサンプル調査を実施し、その結果について情報発信した。
- ・ごみ焼却施設やリサイクルプラザなどの施設見学を通じて、ごみ減量・リサイクルの必要性を訴えた。
- ・各町内会等に環境保全推進員を委嘱し、連携してごみ分別講習会を開くなど、ごみ減量・リサイクルに関する意識の高揚を図った。
- ・町内会や子ども会などが行う集団資源回収の実施団体と回収業者に対し、回収量に応じた報奨金を交付して活動を支援した。
- ・集団資源回収を補完するため、平日及び第3日曜日に、ごみ焼却施設で古着・古紙・小型家電・水銀製品等の拠点回収を実施した。
- ・令和6年4月より、サントリーグループと協定締結し、鶴岡市で回収したペットボトルは水平リサイクルにより100%再利用されている。

今後の取組・方向性

- ・ごみの減量・リサイクルの推進に向け、引き続き情報発信を行う。特に、古紙類の集団資源回収・拠点回収への排出や、プラスチックごみの分別、食品ロスの削減に向けた広報を積極的に展開していく。
- ・令和5年より第4コミセンでの古紙回収を実施しているが、民間事業者とも連携しながら、資源回収場所の拡大の可能性を探る。

(2) ごみ焼却施設でのプラスチック等の年間焼却量

KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
		t	3,771	4,586	3,000	-105.7%	C	△
現状と要因分析		プラスチックごみは、原料に石油資源を使用しており、焼却時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素を排出することから、焼却量の削減に向けた取組を進める必要がある。 令和6年度に実施したもやすごみのサンプル調査によれば、資源として排出可能なプラスチック製容器包装類がもやすごみに約7%混入していたことから、さらなるごみの分別徹底が必要とされている。						

これまでの取組

- ・広報やHP、SNS、LINEのプッシュ通知、YouTubeのショート動画などの各種媒体を活用した情報発信を行った。令和6年6月には、『ごみの分け方・出し方ガイドブック』を改定し各家庭に配布した。
- ・家庭ごみの約9割を占めるもやすごみのサンプル調査を実施し、その結果について情報発信した。
- ・ごみ焼却施設やリサイクルプラザなどの施設見学を通じて、ごみ減量・リサイクルの必要性を訴えた。
- ・各町内会等に環境保全推進員を委嘱し、連携してごみ分別講習会を開くなど、ごみ減量・リサイクルに関する意識の高揚を図った。
- ・事業活動に伴うプラスチックごみは産業廃棄物となることから、事業系ごみの適正排出に向け、ごみステーションへのバケルの設置などの啓発活動を行った。

今後の取組・方向性

- ・プラスチックごみの分別徹底に向け、分別の考え方や水洗い水切りの目安などを引き続き情報発信していく。
- ・事業系ごみの適正排出に向け、情報発信を強化していく。

【進捗状況について】

- 『A』: 成果指標とする数値を達成した (R6 数値 成果指標)
 『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 < R6 数値 < 成果指標)
 『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 R6 数値)
 『△』: データが未集計若しくは有効な数値がない

『見える化』として
傾向方向を矢印で表現

- ・ 横這い
- ・ 上向き
- ・ 下降気味

5 生物多様性の保全と活用による自然共生社会の構築

(1) 自然学習交流館「ほとりあ」の来館者数(年間)

KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
		24,935	26,189	25,000	1929.2%	A	104.8%	26,919

現状と
要因分析
庄内自然博物園構想のもと、市民の方々に対する「自然に触れ合い・親しむ」などの事業推進が図られている。

これまでの取組
令和 5 年度には庄内自然博物園構想の中長期計画 (2024 ~ 2028 年) を策定し、今後の事業を推進していく。

今後の取組・
方向性
今後も継続して自然環境学習に力を入れるとともに、自然学習交流館「ほとりあ」の指定管理者など、地域、関係者との関係構築を図りながら施設の安定運営に向けて取り組む。

(2) 国・県指定天然記念物

KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
		件	19	19	19	△	△	△

現状と
要因分析
現状を維持している

これまでの取組
各指定文化財について、所有者からの問い合わせに対応するとともに、巡回を実施して現状把握に努めている。場合に応じて、樹木医など専門家の意見を聞くなどして適切な保存に努めている。

今後の取組・
方向性
各指定文化財について、所有者からの問い合わせに対応するとともに、巡回を実施して現状把握に努める。場合に応じて、樹木医など専門家の意見を聞くなどして適切な保存に努める。

(3) 市指定天然記念物

KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
		件	26	26	26	△	△	△

現状と
要因分析
現状を維持している

これまでの取組
各指定文化財について、所有者からの問い合わせに対応するとともに、巡回を実施して現状把握に努めている。場合に応じて、樹木医など専門家の意見を聞くなどして適切な保存に努めている。

今後の取組・
方向性
各指定文化財について、所有者からの問い合わせに対応するとともに、巡回を実施して現状把握に努める。場合に応じて、樹木医など専門家の意見を聞くなどして適切な保存に努める。

【進捗状況について】

- 『 A 』: 成果指標とする数値を達成した (R6 数値 = 成果指標)
- 『 B 』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 < R6 数値 < 成果指標)
- 『 C 』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 = R6 数値)
- 『 △ 』: データが未集計若しくは有効な数値がない

『見える化』として
傾向方向を矢印で表現

- ・ 横這い
- ・ 上向き
- ・ 下降気味

6 良好な大気・水環境の確保と次世代への継承								
(1) 水・大気の環境基準達成率								
KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
	%	光化学オキシダントのみ未達成	光化学オキシダントのみ未達成	100.0		C		光化学オキシダントのみ未達成
現状と要因分析	山形県と連携して大気環境の調査・測定を行っており、鶴岡市内の光化学オキシダントは0.086ppmで基準値(0.06ppm)を超過したが、大気汚染防止法で定める屋外活動の自粛を促す注意報発令基準値(0.12ppm)は下回っている。強い日差しや高い気温により高濃度になりやすい。							
これまでの取組	山形県と連携し大気・地下水などの調査・測定を行っており、必要に応じ市独自調査としても実施している。光化学オキシダント、PM2.5等の大気汚染物質に関して、県が実施している常時観測の結果に基づき一定以上の高濃度になることが予測された場合に、小児、高齢者等の高感受性者への注意喚起を実施するための連絡網を更新整備している。							
今後の取組・方向性	引き続き山形県と連携し光化学オキシダントの生成の原因となる物質を多く排出するばい煙発生施設や揮発性有機化合物排出施設について、立入検査や排出ガス検査により、排出基準の遵守等を指導していく。 地域の生活環境の保全の取組みにおいては、公害防止や相談対応の即応性が求められることから、今後は更に情報収集等について、関係部署と連携を図りながら、業務の効率化・迅速化を検討する。							
(2) 公害事案(基準値越え)件数								
KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
	件	0	0	0		A		0
現状と要因分析	一部事業者では、自主的な調査・測定を行うなど企業の意識も高くなっているが、基準値を超える重大な公害事案は無い。							
これまでの取組	環境保全推進員制度を設け、町内会等住民自治組織からの推薦により、生活環境保全に対する意識の向上に努めている。 典型7公害(大気汚染・水質汚濁・土壤汚染・騒音・振動・地盤沈下・悪臭)その他化学物質などに関して苦情相談があった際は、所有者または管理者へ適正な管理、対策をするよう助言し生活環境の保全に努めるとともに、関係法令に定める手続関係事務や、県と連携した各種測定事務などの対策を行っている。							
今後の取組・方向性	典型7公害(大気汚染・水質汚濁・土壤汚染・騒音・振動・地盤沈下・悪臭)その他化学物質などに関して、関係法令に定める手続関係事務や、県と連携した各種測定事務などの対策を引き続き行う。地域の生活環境の保全と美化運動の推進のため、引き続き環境保全推進員による取組みを継続する。							
(3) 危険空き家解体補助件数(累計)								
KPI	単位	現状値 (初期値 R3) (A)	R6実績 (B)	成果指標 (目標値) (C)	進捗率 (B-A)/(C-A)	進捗状況	目標達成比率 (B/C)	R5実績
	件	22	36	72	28.0%	B	50.0%	30
現状と要因分析	空き家・空き地の所有者に適正管理を促し、危険空き家の発生を抑制するとともに、危険空き家の応急措置による危険な状態の回避及び解体補助金制度による解体を促進する。							
これまでの取組	前年度の草木苦情対応者及び危険空き家所有者への適正管理通知書を送付し、適正管理を促した。また、危険空き家の応急措置により危険な状態を回避するとともに、危険空き家解体補助制度により危険空き家の解体を促進した。 なお、危険空き家解体補助制度については、本市ホームページや空き家相談会などにより周知を行っており、ほぼ予算上限の活用がされている。							
今後の取組・方向性	令和7年度より空き家業務は建築課へ移管している。引き続き空き家の適正管理に向けた取り組みと危険空き家の抑制対策等を実施するとともに、補助事業については市民のニーズに合わせた見直しを更に検討し、市民の危険空き家解体の促進を図る。 また、危険な状態になる前に有効活用することが、市民や市の負担を軽減することに繋がることから利活用を推進する。							

【進捗状況について】

- 『A』: 成果指標とする数値を達成した (R6 数値 = 成果指標)
 『B』: 成果指標とする数値の達成に向け現状値(初期値)から進展がある (初期値 < R6 数値 < 成果指標)
 『C』: 現状値(初期値)から進展がない又は後退した (初期値 = R6 数値)
 『-』: データが未集計若しくは有効な数値がない

『見える化』として傾向方向を矢印で表現

- ・ 横這い
- ・ 上向き
- ・ 下降気味